第3章　目指すべき地域像

1 テーマ

三遠南信流域都市圏の創生 ～日本の県境連携先進モデル～

本地域は、中央アルプスや南アルプスなど、本州の中央に位置する山々を水源とし太平洋に注ぐ、天竜川、豊川流域を基軸として、道や鉄道を通じ人々が行き交い交流することで、都市の発展とともに歴史を積み重ね、一体的な流域都市圏を形成してきました。

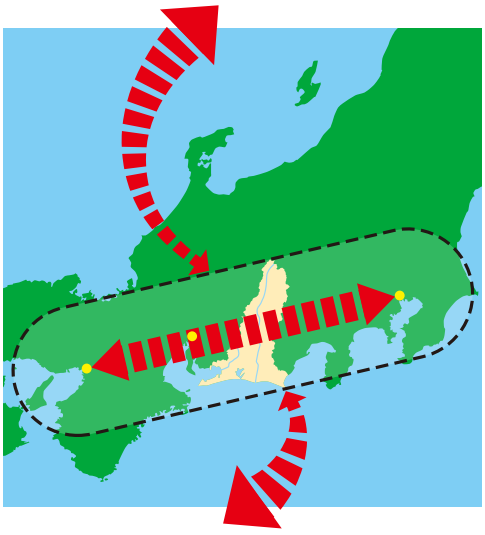
本地域の住民が、地域の持続的発展と自立のために、この地域を創生するという考えのもと、テーマを「三遠南信流域都市圏の創生」と定めました。本地域で県境を越えて実践されている産学官民や地域間の交流、連携の成果が、「日本の県境連携先進モデル」として日本の県境連携を牽引し、我が国の地方創生*に貢献します。

2 目指すべき地域像

（1）大都市圏・世界と結ばれる広域連携都市圏の形成

2015年（平成27年）に策定された国土形成計画*では、東京、名古屋及び大阪を結ぶリニア中央新幹線*の開業により、世界最大の人口を有するスーパー・メガリージョン*が形成され、世界から人、物、金、情報を引きつけ、世界を先導する巨大経済圏の形成を推進することとしています。

本地域においても、2027年にリニア中央新幹線の長野県駅の設置が予定されていることから、既存の東海道新幹線や東名・新東名高速道路、中央自動車道、三河港、御前崎港、富士山静岡空港などの交通基盤を活かして、首都圏や関西圏などの大都市圏、北陸圏との結びつきを強めるとともに、世界との交流、連携も見据えた広域連携都市圏の形成を目指します。

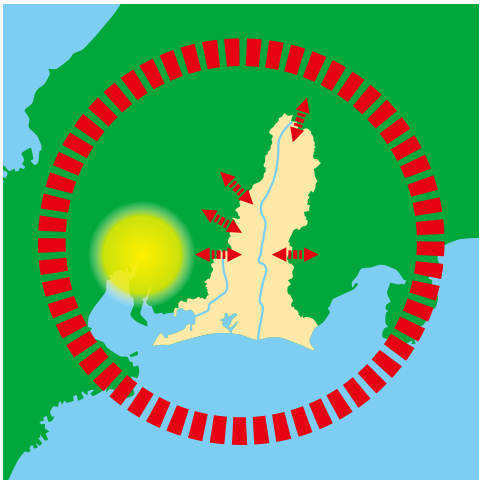


■広域連携都市圏のイメージ

（2）中部圏での中核的都市圏の形成

本地域は、中部圏において、名古屋大都市圏に隣接しています。国土形成計画*の中部圏広域地方計画では、「広域連携の先進をいく三遠南信地域連携」と位置付けられています。高速交通ネットワーク整備の進展に伴い、県境や地形的な制約などを越えた広域な交流連携が進みつつあり、自動車産業をはじめ高度なものづくり産業が集積する広域経済圏として、また二地域居住など新たな定住推進モデルの形成を通じた広域生活圏としての発展が期待されます。

今後においても、都市機能の集積が進む名古屋大都市圏や静岡県中部地域、長野県諏訪地域、岐阜県美濃地域との連携を図ることで、中部圏での中核的都市圏としての役割を担い、産業や文化、人の多様なネットワークの構築を目指します。



■中核的都市圏のイメージ

（3）流域循環圏の形成

本地域は、天竜川・豊川による豊かな自然資源に恵まれ、その基盤をもとに生活、産業、文化が形づくられてきました。

上流域と下流域とは、水や食材、木材の供給をはじめ、人々の暮らしや産業活動においても、相互に依存し深く結びついています。とりわけ、本地域の自然環境に適応した農林水産業により多様な農林水産品を生産し、地産地消はもとより大都市圏への供給地ともなっています。

本地域が一体的な振興発展を遂げるために、上下流域の環境や経済をはじめ、広範な分野において、人、物、情報が循環する有機的なネットワークの構築を目指します。

■流域循環圏のイメージ

3 地域構造

（1）本地域のゲートウェイ

本地域は、中部圏の名古屋大都市圏に隣接する中核的都市圏であり、高速交通ネットワーク整備の進展に伴い、首都圏や近畿圏、北陸圏との交通アクセスも飛躍的に向上しています。リニア中央新幹線*、東海道新幹線や東名・新東名高速道路は、本地域と三大都市圏を高速で結ぶ、大変重要な社会基盤です。

また、本地域と海外とを結ぶ港湾である三河港と御前崎港は、自動車をはじめとする輸送用機器の輸出入の拠点であり、隣接地域には名古屋港や清水港もあります。富士山静岡空港は、インバウンド需要の増大で利用価値が高まっており、隣接地域に中部国際空港もあります。

（2）ゾーニング

本地域を東名高速道路、新東名高速道路を境界にして3つのエリアにゾーニングします。

①太平洋沿岸ゾーン

東名高速道路から南の地域は、東名高速道路や国道1号、国道23号バイパス（名豊道路）の東西幹線が貫き、西に三河港、東に御前崎港の国際港湾を擁しています。

豊橋市と浜松市とを広域交通網や情報網でより緊密に結び付け、本地域の拠点として本地域全体の発展を牽引します。

②内陸ゾーン

東名高速道路と新東名高速道路に挟まれた地域は、郊外市街地と農業地帯が混在する中で、急速に開発が進んでいる地域です。

特に、新東名高速道路のインターチェンジや東名高速道路スマートインターチェンジの整備に伴い、その周辺では、交通利便性の高まりや災害リスク回避の視点から企業立地が進んでいます。

自然環境との調和を保ちつつ、太平洋沿岸ゾーンや中山間ゾーンの間に位置することからバランスの取れた開発を進めていくことが必要です。

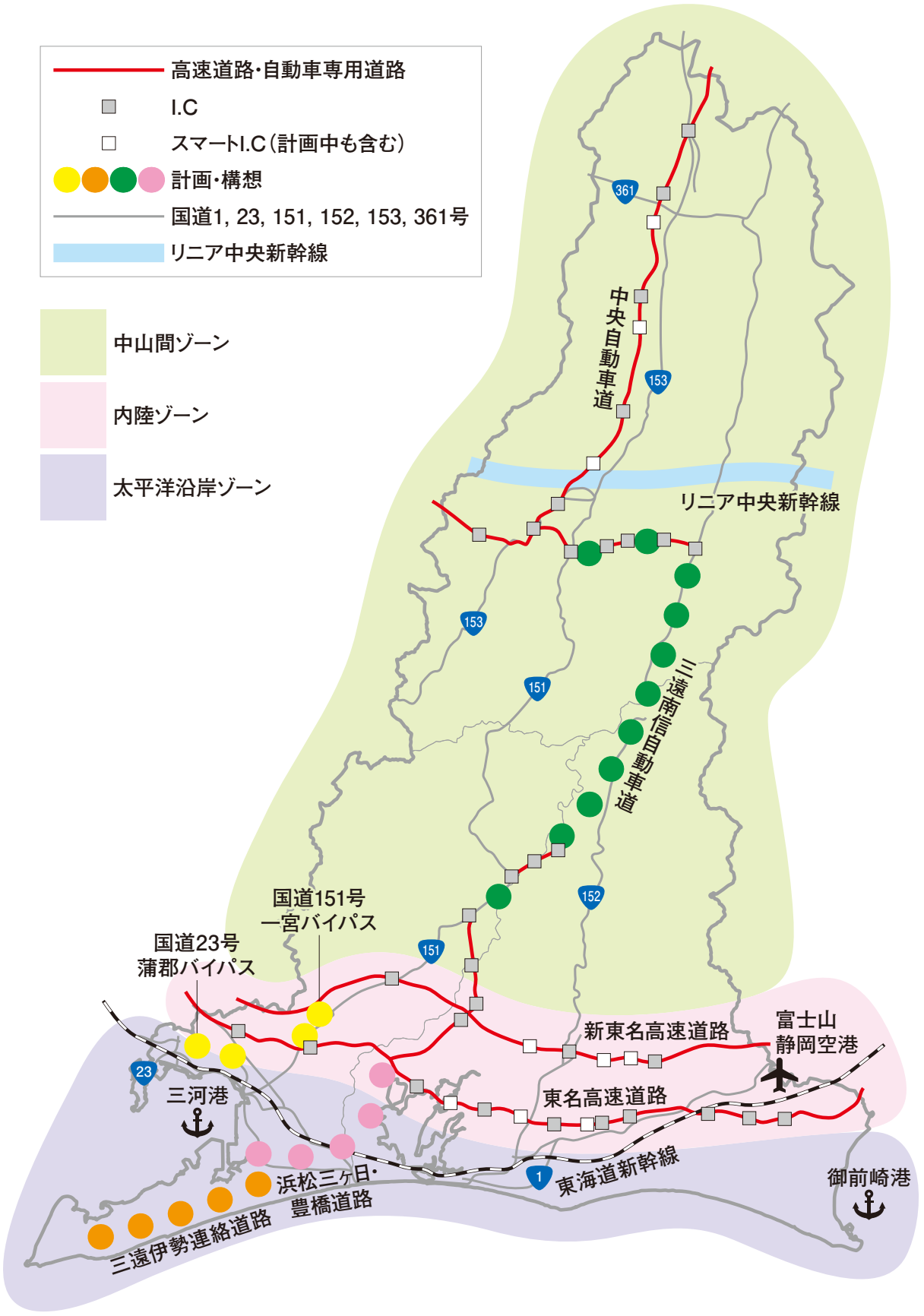
③中山間ゾーン

新東名高速道路より北側に位置する中山間地域は、農林業が盛んな地域であり、中央自動車道沿線地域は、比較的工業集積が高く、周辺開発が進んでいます。また、リニア中央新幹線の開業による飛躍的な発展の可能性を秘めています。

豊かな自然環境の保全を前提とした地域資源の活用に取り組み、ライフスタイルの多様化に対応した交流人口の拡大や、生活基盤の整備を一層進めます。また、リニア中央新幹線の開業効果を最大限に引き出すため、産業・観光振興に取り組むことが求められます。

三遠南信自動車道*の整備が進む中、内陸ゾーンや太平洋沿岸ゾーンとの活発な交流による地域振興、北陸圏とのつながりを強化していくことが重要です。

3つの性格を持ったゾーンの循環性を確保するために、三遠南信自動車道の整備の促進や浜松三ヶ日・豊橋道路*の早期実現、リニア中央新幹線の長野県駅を中心とした高速交通ネットワーク網の整備を進めていくことが必要です。


高速道路・自動車専用道路
I.C
スマートI.C（計画中も含む）
計画・構想
国道1, 23, 151, 152, 153, 361号
リニア中央新幹線
中山間ゾーン
内陸ゾーン
太平洋沿岸ゾーン
361
中央自動車道
153
リニア中央新幹線
153
151
三遠南信自動車道
152
国道151号
一宮バイパス
国道23号
蒲郡バイパス
151
新東名高速道路
富士山
静岡空港
23
三河港
東名高速道路
1
東海道新幹線
御前崎港
浜松三ヶ日・
豊橋道路
三遠伊勢連絡道路

■ゾーニング